



ストレンジャー・ザン・パラダイス



CINEMA試写室

いろとりどりの若葉の季節

淀川 長治

〈映画評論家〉

新開地復興運動で来る五月十日には新開地の映画館で私はシンカイチの講演をすることになる。KOBECの読者は一人でも多く聞きに来ていただきたい。

いっぽう西洋活動写真上陸第一歩が神戸、この記念碑がポートアイラン公園に建つというこれも来年五月完成という嬉しさ、神戸はファイトを見せて、たのもしい。

×

映画のほうは、アメリカ映画「ストレンジャー・ザン・パラダイス」（一九八四年作、モノクロ、一時間半）が面白い。

素人映画のようなその素人らしい新鮮さが目にしみこむ。しかし中味は凄くろおど。

大正九年（一九二〇年）ごろ神戸のキネマ俱楽部で大正活映の「アマチュア俱楽部」と「葛飾砂子」を見た時もその新鮮さに驚いた。谷崎潤一郎がシナリオに參加した大正活映作品だった。もつとも鏡花の「葛飾砂子」は監督の栗原喜三郎自身が脚色に当ったということである。

アメリカでは「パワリイ25時」という記録映画と「アメリカの影」という劇映画にたまらない新鮮さを見た。

もう三十年以上もまえのことである。フランス映画のゴダールの「勝手にしやがれ」（一九五九）もその出来上りは実に新鮮だった。この新鮮さをヌーベルヴァーグなどと呼んで騒ぐのもはたから見ると大人気ないが、映画はなにか科学が新科学を発見すると同じく新しさに映画進歩を発見した気になる。

「ストレンジャー・ザン・パラダイス」はハンガリイの十六歳の女の子がアメリカのクリーヴランドの伯母を訪ねる映画。その道中でニューヨークのい、この家に泊り、そのいとこのこれも二十歳あまりの男とその男の友だちとのニューヨーク十日間スケッチと今度はこの三人がクリーヴランドからフロリダへ行く。その道中スケッチ。

ニューヨークとクリーヴランドとフロリダの、いわばパート三部にわかったスケッチ・スタイル。素人が16ミ

りでとつていてるようでいて、ぐんぐんと引きつけてゆく。ときどき画面をまっくろにして五秒六秒。これがこくを感じさせる。男二人女一人のこの青春、映画の中のエロ・シーンの「ときものは一度も見せたことがない、エロもセックスもない、それでこの三人の若さを私たちに身にしみこませさせる。

脚本と監督はジム・ジャームッシュ。若者の一人は音楽の方では知られたジョン・ルーリー。日本に二度来て

×

同じアメリカ映画の「ナインハーフ」(一九八五)はミック・ロー・ローク主演映画。「イヤー・オブ・ザ・ドラゴン」(一九八五)で好きと嫌いのまっぷたつに別れた新人の主演映画だ。私はミック・ロークは好きにはなれない。けれどこの好きになれないという点が、ときに効く。ヴァレンチノの初登場も好きと嫌いにわかれたものである。男子ファンは総スカン、女性ファンはためいき新人。ロークにもその匂いあり。原名「九週間半」。場所はニューヨーク。時は現代。男と女が逢った。男は金の売買

人。女は画廊勤め。女は離婚したばかり。この二人。ひと目惚れ。女が男の誘いにこわごわ応じる一週間。もちろん逢った日に二人は肌をゆるす。二週間目、男が女に目かくしさせる。三週目、男が女に男装させる。四週間目、男が女に犬になれという、這つて床のものを口でくわえろと命じる……というこの九週間半がいかなるENDを画面で見せるか。女はキム・ベイシンジャー。「ナチュラル」に出ていた。監督が「フラッシュ・ダンス」のエイドリアン・ライアンゆえ、あくどい演出はしていないが、見るからにミック・ローク売り出しの野心映画とわかる。

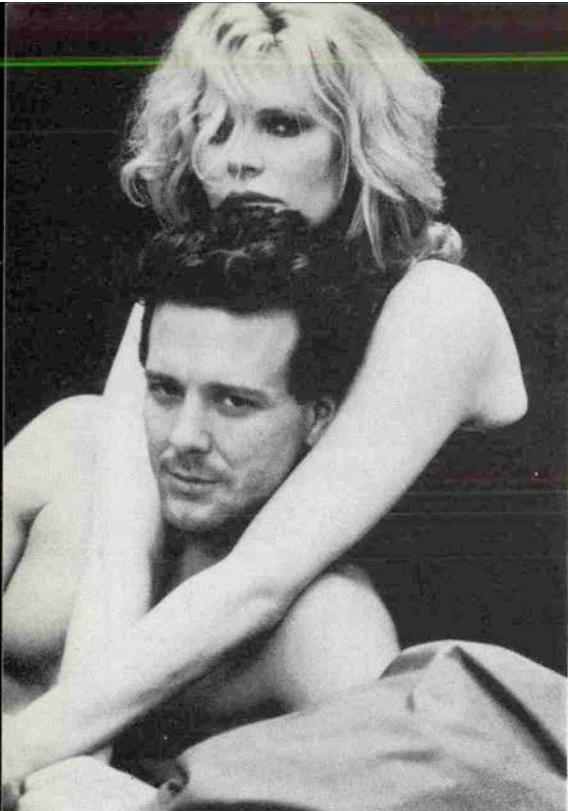
×

ことしの東京は二度三度と雪にいじめられた。それでも梅も見事に、やがて今日あたりは桜がつぼみをふくらませてきた。今日は三月三十一日。この二日まえ、お久し振りで赤坂で谷崎潤一郎先生の未亡人の松子さんとお逢いした。松子さんとお逢いすると、いつも神戸大阪の話しじる。神戸べん、大阪べんになる。

おとしはうかがわぬが、もはや八十をこえられたと思う。やせて小さくなられ、きれいな和服で、話し合つているうちにも涙をこぼされた。神戸への想い、大阪への懷しさが、嬉しく、それらへの郷愁の涙と思えた。

同席の高畠達四郎画伯の未亡人がその松子さんをいとしんで、このおふたりが赤坂のおとなり同士で、私はこの東と西のお育ちのおふたりに見どれたが、高畠未亡人はもうすぐロンドンの息子さんに逢いにゆくというお元気さだった。

別れるとき、今度は、松子さんがほんとうに泣かれた。美しいひと、いといしいひと。



アメリカ映画「ナインハーフ」(1985)より

そして彼女の独自のブルース・フィーリング。幼い頃から黒人ジャズメンたちとの交流と、ニューヨーク生まれの都会人の洗練されたセンスから創られたものだ



一九六七年から五年間日
ろう。



音 樂

★サルツブルグ・カメラータ・ア
カデミカ

8日(木)19時 神戸文化大ホール
55000円(会員4500円)

A 43000円(会員3800円) B 3
5000円(3000円)

★フランス歌曲の夕べ
バリトン/ジェラール・スゼー
ピアノ/ダルトン・ボールドウ
ン

9日(金)19時 神戸文化大ホール
A(指定)4000円 B(当日
指定)3000円

★吹奏楽団「ブラス・ボルテニー
第12回定期演奏会
22日(木)18時半 神戸文化大ホー
ル 400円(当日450円)

★神戸フィルハーモニック定期演
奏会
11日(日)14時 神戸文化大ホール
一般1200円(当日1500円)
学生700円(1000円) ファ
ミリ1300円

★「天使のフルート」ベルディイ
ン・スデンベルク
22日(木)19時 神戸文化大ホール
S 4000円 A 3000円 B 2000円



映 画



古 典 芸 能



★世界平和への道
藤井透峰笛一管は語る
28日(水)12時半 神戸文化大ホー
ル 3000円(会員2700円)

★劇団花伝ツア第6回公演
「ツーリングエクスプレス」
4日(日)13時半 神戸文化小ホール
3000円(会員2500円) C 2500円
B 2000円

★地人公演
「アフリカ生命...燃えつきて!!」
5日(祝)18時半 神戸文化大ホール
5500円(会員4000円) A 4000円
B 3000円

★「ソ・コ・ラ・リ」
現代日本画秀作展
第28回兵庫県美術家同窓会公募
展

★そ・こ・ラ・リ
版画の中の猫たち展
芹沢幹介・棟方志功小品展
今井ロダン油絵小品展
小田部正邦日本画
5号展 10/23 16/5 21/5
5/28 14/5 7/5 21/5



映 画

★筒井康隆原作「スタア」

5月23日より三ノ宮新アサヒにて上
映 大人1100円(当日1300円)

2000円

★神戸室内合奏団定期演奏会
指揮・音楽監督 岩瀬龍太郎

27日(火)19時 神戸文化中ホール
2000円(会員2500円) 高
校以下1500円 ベア3000
円

★大江浩志フルートリサイタル
28日(水)18時半 生田文化会館
1500円

★劇団そぞら群「ヒトガタ抄」
22日(木)23日(金)24日(土)18時
25日(日)13時半 神戸文化小ホール
ホ 1000円(会員1500円)

★サンバル市民ギャラリー
丸木位里・俊展シルクリードを
描く中国の旅
5月22日(日)13時半
5月23日(月)14時半
5月24日(火)15時半
5月25日(水)16時半
5月26日(木)17時半
5月27日(金)18時半

★県民アートギャラリー
第12回水葉会展
第28回兵庫県美術家同窓会公募
展

24日(土)「アモク」
市立博物館 11時 4時 400
円 当日500円

★青年座公演「地の乳房」
22日(木)23日(金)24日(土)18時
25日(日)13時半 神戸文化中
ホ 1000円(会員1500円)

村晴彦古都風景展
加藤孝作陶展
「花々」を描く遠藤昭吉展
5月15日(日)13時半
5月16日(月)14時半
5月17日(火)15時半
5月18日(水)16時半
5月19日(木)17時半
5月20日(金)18時半
5月21日(土)19時半
5月22日(日)20時半
5月23日(月)21時半
5月24日(火)22時半
5月25日(水)23時半
5月26日(木)24時半
5月27日(金)25時半
5月28日(土)26時半
5月29日(日)27時半
5月30日(月)28時半
5月31日(火)29時半
6月1日(水)30時半
6月2日(木)31時半
6月3日(金)32時半
6月4日(土)33時半
6月5日(日)34時半
6月6日(月)35時半
6月7日(火)36時半
6月8日(水)37時半
6月9日(木)38時半
6月10日(金)39時半
6月11日(土)40時半
6月12日(日)41時半
6月13日(月)42時半
6月14日(火)43時半
6月15日(水)44時半
6月16日(木)45時半
6月17日(金)46時半
6月18日(土)47時半
6月19日(日)48時半
6月20日(月)49時半
6月21日(火)50時半
6月22日(水)51時半
6月23日(木)52時半
6月24日(金)53時半
6月25日(土)54時半
6月26日(日)55時半
6月27日(月)56時半
6月28日(火)57時半
6月29日(水)58時半
6月30日(木)59時半
6月1日(金)60時半
6月2日(土)61時半
6月3日(日)62時半
6月4日(月)63時半
6月5日(火)64時半
6月6日(水)65時半
6月7日(木)66時半
6月8日(金)67時半
6月9日(土)68時半
6月10日(日)69時半
6月11日(月)70時半
6月12日(火)71時半
6月13日(水)72時半
6月14日(木)73時半
6月15日(金)74時半
6月16日(土)75時半
6月17日(日)76時半
6月18日(月)77時半
6月19日(火)78時半
6月20日(水)79時半
6月21日(木)80時半
6月22日(金)81時半
6月23日(土)82時半
6月24日(日)83時半
6月25日(月)84時半
6月26日(火)85時半
6月27日(水)86時半
6月28日(木)87時半
6月29日(金)88時半
6月30日(土)89時半
6月1日(日)90時半
6月2日(月)91時半
6月3日(火)92時半
6月4日(水)93時半
6月5日(木)94時半
6月6日(金)95時半
6月7日(土)96時半
6月8日(日)97時半
6月9日(月)98時半
6月10日(火)99時半
6月11日(水)100時半
6月12日(木)101時半
6月13日(金)102時半
6月14日(土)103時半
6月15日(日)104時半
6月16日(月)105時半
6月17日(火)106時半
6月18日(水)107時半
6月19日(木)108時半
6月20日(金)109時半
6月21日(土)110時半
6月22日(日)111時半
6月23日(月)112時半
6月24日(火)113時半
6月25日(水)114時半
6月26日(木)115時半
6月27日(金)116時半
6月28日(土)117時半
6月29日(日)118時半
6月30日(月)119時半
6月1日(火)120時半
6月2日(水)121時半
6月3日(木)122時半
6月4日(金)123時半
6月5日(土)124時半
6月6日(日)125時半
6月7日(月)126時半
6月8日(火)127時半
6月9日(水)128時半
6月10日(木)129時半
6月11日(金)130時半
6月12日(土)131時半
6月13日(日)132時半
6月14日(月)133時半
6月15日(火)134時半
6月16日(水)135時半
6月17日(木)136時半
6月18日(金)137時半
6月19日(土)138時半
6月20日(日)139時半
6月21日(月)140時半
6月22日(火)141時半
6月23日(水)142時半
6月24日(木)143時半
6月25日(金)144時半
6月26日(土)145時半
6月27日(日)146時半
6月28日(月)147時半
6月29日(火)148時半
6月30日(水)149時半
6月1日(木)150時半
6月2日(金)151時半
6月3日(土)152時半
6月4日(日)153時半
6月5日(月)154時半
6月6日(火)155時半
6月7日(水)156時半
6月8日(木)157時半
6月9日(金)158時半
6月10日(土)159時半
6月11日(日)160時半
6月12日(月)161時半
6月13日(火)162時半
6月14日(水)163時半
6月15日(木)164時半
6月16日(金)165時半
6月17日(土)166時半
6月18日(日)167時半
6月19日(月)168時半
6月20日(火)169時半
6月21日(水)170時半
6月22日(木)171時半
6月23日(金)172時半
6月24日(土)173時半
6月25日(日)174時半
6月26日(月)175時半
6月27日(火)176時半
6月28日(水)177時半
6月29日(木)178時半
6月30日(金)179時半
6月1日(土)180時半
6月2日(日)181時半
6月3日(月)182時半
6月4日(火)183時半
6月5日(水)184時半
6月6日(木)185時半
6月7日(金)186時半
6月8日(土)187時半
6月9日(日)188時半
6月10日(月)189時半
6月11日(火)190時半
6月12日(水)191時半
6月13日(木)192時半
6月14日(金)193時半
6月15日(土)194時半
6月16日(日)195時半
6月17日(月)196時半
6月18日(火)197時半
6月19日(水)198時半
6月20日(木)199時半
6月21日(金)200時半
6月22日(土)201時半
6月23日(日)202時半
6月24日(月)203時半
6月25日(火)204時半
6月26日(水)205時半
6月27日(木)206時半
6月28日(金)207時半
6月29日(土)208時半
6月30日(日)209時半
6月1日(月)210時半
6月2日(火)211時半
6月3日(水)212時半
6月4日(木)213時半
6月5日(金)214時半
6月6日(土)215時半
6月7日(日)216時半
6月8日(月)217時半
6月9日(火)218時半
6月10日(水)219時半
6月11日(木)220時半
6月12日(金)221時半
6月13日(土)222時半
6月14日(日)223時半
6月15日(月)224時半
6月16日(火)225時半
6月17日(水)226時半
6月18日(木)227時半
6月19日(金)228時半
6月20日(土)229時半
6月21日(日)230時半
6月22日(月)231時半
6月23日(火)232時半
6月24日(水)233時半
6月25日(木)234時半
6月26日(金)235時半
6月27日(土)236時半
6月28日(日)237時半
6月29日(月)238時半
6月30日(火)239時半
6月1日(水)240時半
6月2日(木)241時半
6月3日(金)242時半
6月4日(土)243時半
6月5日(日)244時半
6月6日(月)245時半
6月7日(火)246時半
6月8日(水)247時半
6月9日(木)248時半
6月10日(金)249時半
6月11日(土)250時半
6月12日(日)251時半
6月13日(月)252時半
6月14日(火)253時半
6月15日(水)254時半
6月16日(木)255時半
6月17日(金)256時半
6月18日(土)257時半
6月19日(日)258時半
6月20日(月)259時半
6月21日(火)260時半
6月22日(水)261時半
6月23日(木)262時半
6月24日(金)263時半
6月25日(土)264時半
6月26日(日)265時半
6月27日(月)266時半
6月28日(火)267時半
6月29日(水)268時半
6月30日(木)269時半
6月1日(金)270時半
6月2日(土)271時半
6月3日(日)272時半
6月4日(月)273時半
6月5日(火)274時半
6月6日(水)275時半
6月7日(木)276時半
6月8日(金)277時半
6月9日(土)278時半
6月10日(日)279時半
6月11日(月)280時半
6月12日(火)281時半
6月13日(水)282時半
6月14日(木)283時半
6月15日(金)284時半
6月16日(土)285時半
6月17日(日)286時半
6月18日(月)287時半
6月19日(火)288時半
6月20日(水)289時半
6月21日(木)290時半
6月22日(金)291時半
6月23日(土)292時半
6月24日(日)293時半
6月25日(月)294時半
6月26日(火)295時半
6月27日(水)296時半
6月28日(木)297時半
6月29日(金)298時半
6月30日(土)299時半
6月1日(日)300時半
6月2日(月)301時半
6月3日(火)302時半
6月4日(水)303時半
6月5日(木)304時半
6月6日(金)305時半
6月7日(土)306時半
6月8日(日)307時半
6月9日(月)308時半
6月10日(火)309時半
6月11日(水)310時半
6月12日(木)311時半
6月13日(金)312時半
6月14日(土)313時半
6月15日(日)314時半
6月16日(月)315時半
6月17日(火)316時半
6月18日(水)317時半
6月19日(木)318時半
6月20日(金)319時半
6月21日(土)320時半
6月22日(日)321時半
6月23日(月)322時半
6月24日(火)323時半
6月25日(水)324時半
6月26日(木)325時半
6月27日(金)326時半
6月28日(土)327時半
6月29日(日)328時半
6月30日(月)329時半
6月1日(火)330時半
6月2日(水)331時半
6月3日(木)332時半
6月4日(金)333時半
6月5日(土)334時半
6月6日(日)335時半
6月7日(月)336時半
6月8日(火)337時半
6月9日(水)338時半
6月10日(木)339時半
6月11日(金)340時半
6月12日(土)341時半
6月13日(日)342時半
6月14日(月)343時半
6月15日(火)344時半
6月16日(水)345時半
6月17日(木)346時半
6月18日(金)347時半
6月19日(土)348時半
6月20日(日)349時半
6月21日(月)350時半
6月22日(火)351時半
6月23日(水)352時半
6月24日(木)353時半
6月25日(金)354時半
6月26日(土)355時半
6月27日(日)356時半
6月28日(月)357時半
6月29日(火)358時半
6月30日(水)359時半
6月1日(木)360時半
6月2日(金)361時半
6月3日(土)362時半
6月4日(日)363時半
6月5日(月)364時半
6月6日(火)365時半
6月7日(水)366時半
6月8日(木)367時半
6月9日(金)368時半
6月10日(土)369時半
6月11日(日)370時半
6月12日(月)371時半
6月13日(火)372時半
6月14日(水)373時半
6月15日(木)374時半
6月16日(金)375時半
6月17日(土)376時半
6月18日(日)377時半
6月19日(月)378時半
6月20日(火)379時半
6月21日(水)380時半
6月22日(木)381時半
6月23日(金)382時半
6月24日(土)383時半
6月25日(日)384時半
6月26日(月)385時半
6月27日(火)386時半
6月28日(水)387時半
6月29日(木)388時半
6月30日(金)389時半
6月1日(土)390時半
6月2日(日)391時半
6月3日(月)392時半
6月4日(火)393時半
6月5日(水)394時半
6月6日(木)395時半
6月7日(金)396時半
6月8日(土)397時半
6月9日(日)398時半
6月10日(月)399時半
6月11日(火)400時半
6月12日(水)401時半
6月13日(木)402時半
6月14日(金)403時半
6月15日(土)404時半
6月16日(日)405時半
6月17日(月)406時半
6月18日(火)407時半
6月19日(水)408時半
6月20日(木)409時半
6月21日(金)410時半
6月22日(土)411時半
6月23日(日)412時半
6月24日(月)413時半
6月25日(火)414時半
6月26日(水)415時半
6月27日(木)416時半
6月28日(金)417時半
6月29日(土)418時半
6月30日(日)419時半
6月1日(月)420時半
6月2日(火)421時半
6月3日(水)422時半
6月4日(木)423時半
6月5日(金)424時半
6月6日(土)425時半
6月7日(日)426時半
6月8日(月)427時半
6月9日(火)428時半
6月10日(水)429時半
6月11日(木)430時半
6月12日(金)431時半
6月13日(土)432時半
6月14日(日)433時半
6月15日(月)434時半
6月16日(火)435時半
6月17日(水)436時半
6月18日(木)437時半
6月19日(金)438時半
6月20日(土)439時半
6月21日(日)440時半
6月22日(月)441時半
6月23日(火)442時半
6月24日(水)443時半
6月25日(木)444時半
6月26日(金)445時半
6月27日(土)446時半
6月28日(日)447時半
6月29日(月)448時半
6月30日(火)449時半
6月1日(水)450時半
6月2日(木)451時半
6月3日(金)452時半
6月4日(土)453時半
6月5日(日)454時半
6月6日(月)455時半
6月7日(火)456時半
6月8日(水)457時半
6月9日(木)458時半
6月10日(金)459時半
6月11日(土)460時半
6月12日(日)461時半
6月13日(月)462時半
6月14日(火)463時半
6月15日(水)464時半
6月16日(木)465時半
6月17日(金)466時半
6月18日(土)467時半
6月19日(日)468時半
6月20日(月)469時半
6月21日(火)470時半
6月22日(水)471時半
6月23日(木)472時半
6月24日(金)473時半
6月25日(土)474時半
6月26日(日)475時半
6月27日(月)476時半
6月28日(火)477時半
6月29日(水)478時半
6月30日(木)479時半
6月1日(金)480時半
6月2日(土)481時半
6月3日(日)482時半
6月4日(月)483時半
6月5日(火)484時半
6月6日(水)485時半
6月7日(木)486時半
6月8日(金)487時半
6月9日(土)488時半
6月10日(日)489時半
6月11日(月)490時半
6月12日(火)491時半
6月13日(水)492時半
6月14日(木)493時半
6月15日(金)494時半
6月16日(土)495時半
6月17日(日)496時半
6月18日(月)497時半
6月19日(火)498時半
6月20日(水)499時半
6月21日(木)500時半
6月22日(金)501時半
6月23日(土)502時半
6月24日(日)503時半
6月25日(月)504時半
6月26日(火)505時半
6月27日(水)506時半
6月28日(木)507時半
6月29日(金)508時半
6月30日(土)509時半
6月1日(日)510時半
6月2日(月)511時半
6月3日(火)512時半
6月4日(水)513時半
6月5日(木)514時半
6月6日(金)515時半
6月7日(土)516時半
6月8日(日)517時半
6月9日(月)518時半
6月10日(火)519時半
6月11日(水)520時半
6月12日(木)521時半
6月13日(金)522時半
6月14日(土)523時半
6月15日(日)524時半
6月16日(月)525時半
6月17日(火)526時半
6月18日(水)527時半
6月19日(木)528時半
6月20日(金)529時半
6月21日(土)530時半
6月22日(日)531時半
6月23日(月)532時半
6月24日(火)533時半
6月25日(水)534時半
6月26日(木)535時半
6月27日(金)536時半
6月28日(土)537時半
6月29日(日)538時半
6月30日(月)539時半
6月1日(火)540時半
6月2日(水)541時半
6月3日(木)542時半
6月4日(金)543時半
6月5日(土)544時半
6月6日(日)545時半
6月7日(月)546時半
6月8日(火)547時半
6月9日(水)548時半
6月10日(木)549時半
6月11日(金)550時半
6月12日(土)551時半
6月13日(日)552時半
6月14日(月)553時半
6月15日(火)554時半
6月16日(水)555時半
6月17日(木)556時半
6月18日(金)557時半
6月19日(土)558時半
6月20日(日)559時半
6月21日(月)560時半
6月22日(火)561時半
6月23日(水)562時半
6月24日(木)563時半
6月25日(金)564時半
6月26日(土)565時半
6月27日(日)566時半
6月28日(月)567時半
6月29日(火)568時半
6月30日(水)569時半
6月1日(木)570時半
6月2日(金)571時半
6月3日(土)572時半
6月4日(日)573時半
6月5日(月)574時半
6月6日(火)575時半
6月7日(水)576時半
6月8日(木)577時半
6月9日(金)578時半
6月10日(土)579時半
6月11日(日)580時半
6月12日(月)581時半
6月13日(火)582時半
6月14日(水)583時半
6月15日(木)584時半
6月16日(金)585時半
6月17日(土)586時半
6月18日(日)587時半
6月19日(月)588時半
6月20日(火)589時半
6月21日(水)590時半
6月22日(木)591時半
6月23日(金)592時半
6月24日(土)593時半
6月25日(日)594時半
6月26日(月)595時半
6月27日(火)596時半
6月28日(水)597時半
6月29日(木)598時半
6月30日(金)599時半
6月1日(土)600時半

本で暮らしたこともあるだけに、日本語もうまく、日本への関心も理解も深い。それだけに日本の観客とのふれあいも大きいだろう。前述の曲の他スタンダード曲が並び、

呼び続ける筒井康隆の初戯曲「スター」。熱狂的筒井アキ、原田大二郎(アキ)が結婚式に招かれた。評論家、芸能記者たちのパーティで次々に起こる超SF的現象。筒井康隆自らが演技する犬神博士がボルテージを極限にまで高め、常識を吹き飛ばす。ブラックユーモアの満

彼の新居開きのパーティに招かれた。評論家、作曲家、芸能記者たちのパーティで次々に起こる超SF的現象。筒井康隆自らが演技する犬神博士がボルテージを



音 樂

★サルツブルグ・カメラータ・ア
カデミカ

8日(木)19時 神戸文化大ホール
5500円(会員4500円)

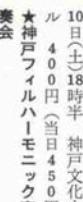
A 4300円(会員3800円) B 3
5000円(3000円)

★フランス歌曲の夕べ
バリトン/ジェラール・スゼー
ピアノ/ダルトン・ボールドウ
ン

9日(金)19時 神戸文化大ホール
A(指定)4000円(会員3500円)
B(当日)4500円

★吹奏楽団「ブラス・ボルテニー」
第12回定期演奏会
22日(木)23日(金)24日(火)
14時 神戸文化大ホール
400円(会員3500円) ファ
ミリ1300円

★「アフリカ映画祭」
3日(土)「黒い女神」
10日(土)「オマール・ガットラート」
17日(土)「三千年の収穫」



映 画



★世界平和への道
藤井透峰笛一管は語る
28日(水)12

残しながら現代の感覚を取り入れた店づくり。木の温もりを感じさせる店内は、ゆったりとした空間が取られ、神戸らしい贅沢さといえる。サロン感覚でくつろぎながら、ダンディーなお洒落を楽しんでもらいたいと語る店主の武田さん。



新装オープンの十字屋洋服店

も展示了された。

大デコレーションケーキを中心にして、1月から12月までの年間歳時をテーマに作られた工芸菓子が展示され、大デコレーションケーキ



KOBEスイーツカレンダー

も展示了された。

ユーハイムや風月堂、ドンハイムコンフェクトなどお馴染みの会社からの出品作品が華やかに雰囲気を盛り上げた。市民から一般募集した自慢の手づくり洋菓子

「スプリング・アーリー・サマー・コレクション」をメインテーマに、ジエルビナやジン・アメなどのブランドが紹介された。春らしい色使いのスーツやジャケットの数々。オーソドック

シヨーが催された。

3月14日から3月間、セントラーブラザ3F、リザ・サロン本店で、オープニング・周年記念のファッショントークが催された。

COLLECTION

周年ファッショントーク 10



デニムのカジュアルウェアも

みを感じさせた。

中、緑系統が新鮮。白や水玉のワンピースも清涼感あふれ、いかにもアーリーサマー風だ。ラストのフォーマルドレスは、昨年に引き続き、白と黒が中心。シックでエレガントなスタイルがいかにもリザらしく、10周年の重

SPECIAL MESSAGE

神戸百店会だより

OPEN

★十字屋洋服店が
ゆとりの新装オープン

元町の十字屋洋服店が、4月6日、リフレッシュオープン。正面、山型の入り口のブレートは、小磯良平画伯のデザイン。元町の老舗のイメージを

SWEETS FAIR

★北野ラインの館で
神戸洋菓子まつり

3月16日から23日の8日間北野町のラインの館の2階展示室で神戸市と兵庫県洋菓子組合主催の「神戸洋菓子まつり」が開催された。

置いていないという新感覚

■元町東店/元町1番街

076-391-3911

★おもちゃのカメラがおしゃれにリフレッシュスマイルアルプルのマークが、パーソナルギフトグッズのお店としてリフレッシュオープン。カメラの元町1番街のお店が、パーソナルギフトグッズのお店としてリフレッシュオープン。

札幌、東京、神戸にしか置いていないという新感覚で、おなじみの、おもちゃのカメラの元町1番街のお店が、パーソナルギフトグッズのお店としてリフレッシュオープン。

■元町東店/元町3丁目

076-391-3911



OPEN

★おもちゃのカメラがおしゃれにリフレッシュスマイルアルプルのマーク

のグッズをはじめ、毎月カメラ独自のテーマに合わせたディスプレイで、いろいろなギフト提案をしていく

いを目指す新ショップで、あなたしさを表現してみませんか。

■元町東店/元町1番街

076-391-3911



新装カメラ
■元町東店/元町3丁目
076-391-3911
■須磨バーティオ店/
078-311-4688
■サンこうべ店/
078-311-4688
■1番街地下街
078-311-4688
■3番店/セントラル
078-311-4688
■4番店/
078-311-4688
■5番店/
078-311-4688
■6番店/
078-311-4688
■7番店/
078-311-4688
■8番店/
078-311-4688

★神戸ファッション市民大学OBによるグループ

<神戸のファッション都市化をめざす>

事務局／神戸市中央区東町113-1 大神ビル9F

月刊神戸っ子内TEL (078) 331-2246

アートの心 遊び心を持って ファッション創りを

講師 米谷玲子

〈学校法人横田学園
神戸服飾専門学校校長〉



KFS 3月のマンスリーサロンは、3月25日、市立勤労会館で、講師に学校法人横田学園神戸服飾専門学校学校長米谷玲子さんを迎えて開かれました。

米谷先生は、学校経営者あるいはトップ指導者としてだけでなく、日本デザイナー協会(NDK)、コウベファッションクリエイター(KFC)に所属するデザイナーとしても活躍し、まさにファッション界を“創る”にふさわしい女性です。先生の考えるファッションクリエイトを中心に、テーマ“創る”を語っていただきました。

「私達デザインに携わる人間にとつて、『創る』という言葉は、欠かせません。“ものを創る”とか、“クリエイション”というのは、深い意味で生活そのものをいうのであり、人生の縮図をあらわしているのかもしれません。何もないところから形にするのが、創

るということです。もちろん、努力なしでは不可能であり、また、創るというのは、喜びの道にもつながります。ファッション、具体的に服創りの場合は、特にそうです。形で表現することができ、すぐに実用的に結びつく、やりがいという言葉にも置き替えることができます。とりわけ、ファッションの“創る”には、華やかなイメージがつきまとうのですが、逆に、かけの地道な努力、忍耐、積み重ねも大いに必要になってきます。きらびやかな“ファッション”という言葉の過程には、特に地道さを欠かすことができません。私は、トップ教育者となるまでの下積み時代が長く、デザイナーとしても、戦後のファッションとともに歩んで来たといえます。東京ドレメ時代に厳しく教えられた服創りは、今もなお私に、妥協しない服創りを示してくれます。

れ、物創りに大切な指導者の役割を、充分に考えさせてもらいます。現在では、生徒達の個性を伸ばしてやりながら、厳しく指導し、時代にあったシャープさ、鋭い感覚を磨いてやることを私の“創る”に対する答として実行しています。物創りには、何であれ、しっかりと信念、思想を持たなければ、その創造物が、人を魅了することのできるものには完成いたしません。また、アートの心、芸術性を持って、物を創るともいいますが、ビジネスをアートに引き上げるだけのものを創り上げなくては、感銘を与える事を成し得ません。すべての物創りにおいて、水準技術が高い日本人です。あとは、ファッションに必要な遊び心を日本の外に出て、離れた立場で認識すること、また、日本古来の美を再認識するだけです。精神からの変化と、忍耐強さで、自分たちの域を超えたクリエイティブな創造物が生まれるのですから

神戸ファッション研究所 設立基金募集中！

—恒例野外研修—

ワイン城見学と神戸ビーフを楽しむ

日時 5月11日(日) P: M12:00

場所 西区押部谷農業公園ワイン城 会費 ¥3,000

ご参加ご希望の方は、月刊神戸っ子山根まで

☎331-2246



□

■ 神戸にしむら珈琲O.B.P.店/ツイ
ン21 陸金06-947-5033
8 A.M.~10 P.M.無休

■ 神戸にしむら珈琲O.B.P.店/ツイ
ン21 陸金06-947-5033
8 A.M.~10 P.M.無休

★ 大阪ビジネスパークに
にしむら珈琲オーブン
神戸の香り、宮水珈琲で
有名なにしむら珈琲店が大
阪ビジネスパークのパーク
アベニューに面した“ツイ
ン21”的正面玄関に4月1
日オーブンした。地上38階

★ エキゾチックな伝統の味
モロッコ生まれのシェフ
エルマレ・サイモンさんが
モロッコ料理店“マラケッ
シユ”をオーブンした。

マラケッシユはサイモン
さんのお母さんの故郷。新
鮮な素材となるべく自然な
味で伝えたいというサイモン
さん。スペイスとハーブ



O.B.P.店内で川瀬喜代子社長



サイモンさん一家

木曜（もしくは第四土曜）
の午後五時半から約二時間
プロの講師を招いて行なわ
れるこのレッスン。クリス
タルが場所を提供するとい
う形で、お客様が中心に
なって始められた。会費は
月額三千円で、会員になれ
ば、月一回のレッスン日の
飲食代は無料の他、オール
タイム飲食代が三千円、カ
ラオケ・カセット練習が無
料という特典がある。



カラオケのレッスン風景

員相互の親睦を図る、とい
う目的で発足したクリスタ
ルカラオケ同好会。ラウン
ジクリスタルにて毎月第二

壁に張りつけた熊の剥
製アイヌ夫婦の一刀彫な
ど北海道のムードがいつ
ぱい。

■ 中央区中山手通1-20-15メゾン
ド山手B1階241-3440月曜休
5 P.M.~12 P.M. (土・日のみランチ
あり) ディナーコース3千円より

● 神戸うまいもん
とドリンクング
蝦夷（えぞ）
北海道郷土料理
中央区中山手通1-4-13 東門
会館1F 電331-7770
17~30/23~30 日祝休



北海道ムードが満点

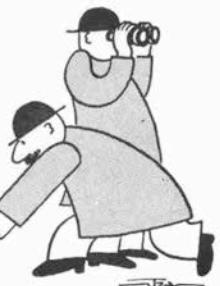
高さ150mの超高層ビルで大
阪城が箱庭のように見える
ツイン21は松下グループの
オフィスビルで、にしむら
珈琲も大理石と皮張りの椅
子が格調高く、オーブン以
来大盛況だ。中央の円柱の
周りは川瀬喜代子社長の考
案で見事な生花が飾られ、
観覧人々の目を和ませてい
る。川瀬喜代子社長の考
案で見事な生花が飾られ、
観覧人々の目を和ませてい
る。

料理は日本人の舌に合う。
炭焼きプロシエット、タ
ジン、クスクスなどモロッ
コの伝統料理が楽しめる。

6F 電331-2751
□ ラウンジクリスタル 中央区北長
狭通二丁目タインサンセットビル

毛蟹五八千円、石狩鶏八百
円、ルイベ五百円、帆立貝子
百円、千円、余市ワイン(ボト
ル)三千円、千歳鶴六百円、ビ
ール七百円

ポケツト ジャーナル



★小磯画伯が薬師寺展に
描き下ろしの三点を
この秋、奈良の薬師寺
(高田好胤管長)が、天武天
皇御忌一三〇〇年を記念し
て薬師寺展が全国各地で開
かれる。その記念行事の一
環として現在日本におけ
る画壇

が集まつて華やかに除幕式
が催された。

★小磯画伯が薬師寺展に
描き下ろしの三点を
この秋、奈良の薬師寺
(高田好胤管長)が、天武天
皇御忌一三〇〇年を記念し
て薬師寺展が全国各地で開
かれる。その記念行事の一
環として現在日本におけ
る画壇

の最高
峰三六
人には
引き下ろ
しの絵
を依頼
し、併
て古切手に「福祉の旅」を
あなたの家庭や職場で古切手が
手(使用済の日本、外国のどんな切
手でも結構です)捨てられていま
せんか。
古切手の周開約一センチほど残
して切りとて、本運動に送って
いただけませんか。

本運動では、この古切手を、主
婦ボランティアによって種類毎に
分け、一部の切手は、台紙から
がします。このはがした古切手を
さらにテーマ毎に分類して、台紙
につめ合せて古切手シートにしま
ります。古切手シートは、バザ
などで販売し、この運動の啓発資
金となります。

★豪・ブリスベーン市と
姉妹都市宣言
神戸市とオーストラリア
のブリスベーン市の姉妹都
市提携宣言書調印式が、三
月三十一日、相楽園会館で
行なわれた。



★由縁の芦屋川沿いに
谷崎潤一郎文学碑建立
文豪谷崎潤一郎氏の生誕
百年を記念して由縁の深い
芦屋川沿いに「細雪」の文
学碑が建立され、4月6日
除幕式が催された。



芦屋文化協議会々長の辻
本勇氏らが中心となつて昨
年実行委員会が結成され、
津高和一画伯が造型し、「細
雪」の碑文は谷崎松子夫人
が、説明文は故足立巻一氏
によつて刻ま
れた。 当日
は桜が
晴で松
永精一郎市長と辻本勇氏、
谷崎潤一郎の孫にあたる高
橋百子さんによるテープカ
ットや、芦屋市在住で谷崎
京子さんが細雪の一節を朗
読するなど三百名の来賓

市旗の交換をする両市長
のブリスベーン市は、人口
約七十三万人のオーストラ
リア第三の都市で、神戸市
にとつては六番目の姉妹都
市となる。

ブリスベーン市は、人口
約七十三万人のオーストラ
リア第三の都市で、神戸市
にとつては六番目の姉妹都
市となる。

市長のあと市旗の交換もあ
つた。

これからは、太平洋をは
さんだ両市の間で、貿易・
観光とより多くの交歓を希
望したい。

神戸の地元小磯良平画伯
も依頼を受け、ここ数年依
頼された絵は描かれなかつ
た小磯画伯が三点を制作。
三月二十六日に薬師寺の安
田映胤事務局長が御影の御
自宅へ絵を受けとりに。「小
磯先生の絵が一番に出来上
り、二十五日には神榮石野
証券の石野惇子夫人が、「ご
主人とご子息の法養とご写
真に当寺へいらっしゃつて
望月美佐一門の書かれた法
華経九巻を奉納なさつた日
で、神戸ご縁があると喜
んでいます」と語つていた

★淀川長治さん
本誌でおなじみの淀川長
長

651 神戸市中央区御幸通八一
神戸国際会館一階の郵便局の隣
○七八一二三一一二一四



こうして、あたたかい心で、こ
の運動に寄せられた古切手は、多
くの人たちの手でよみがえりか
れます。
みなさん、きょうからは、今ま
でないかな、捨てられたいた古切
手に新しいのちを与え、「福祉の
旅」をさせてください。

本運動へお送りいただき場合は
お手数ながら、あなたの住所、氏
名を書いておいてください。折り
返し、お札のカードと本運動発行
のちえおくれの問題の啓発紙を送
ります。



治さん(映画評論家77歳)が
永年の映画評論に対して川
喜多賞を受賞。

数々の名作洋画の輸入に
功績のあった東和映画の川
喜多長政氏の賞とあって淀



淀川長治さん

川さん

の喜び

川さん

も大き

く出

身地の

神戸に賞金百万円を寄附し

た旨の連絡が本誌にあつ

た。五月十一日に映画発祥

の地神戸に記念碑を建てる

会の発会式があり、その時

点で同会への寄附がなされ

る予定。又、五月十日は新

開地商店連合会新開地周辺

街づくり協議会が主催し、

東映劇場で午後六時より淀

川さんの講演会が開かれ

る。当会には講演料五〇万

円を寄附される。

★神戸を舞台にNHKから

「風を愛して」

5月5日(月)から始ま

る、NHKの銀河テレビ小

説「風

を愛し

て」。神

戸を舞

ふみと近藤正臣

を愛し

り抜け

られる

笑いと涙を満載した、痛快

ネアカドrama。



主演の壇上に近藤正臣

と川喜多賞を受賞

する

5月5日(月)から始ま

る、NHKの銀河テレビ小

説「風

を愛して」

5月5日(月)から始ま

る、NHKの銀

■ここらの歳時記

人との出会い大切に

佐世晃大月谷
<大谷徳風社社長>



書のきもの姿もあでやかな望月美佐さん



大谷社長

アメリカへ行きました時に、私の書の白黒の濃淡の組み合わせの書のきもの姿が美しく見えるときですか。女性が美しく見えるときですか。喪服のおしゃれというのは女にとってとても大切なことです。

喪服のきもの姿やドレスは、黒で女性が美しく見えるときですか。喪服のおしゃれというのは女にとってとても大切なことです。

アーティストへ行きました時に、私の書の白黒の濃淡の組み合わせの書のきものを俳優のグレゴリー・ペックさんがすごく喜んで下さって、

「ええ、きょうは五月にふさわしい装いをと思ってね。喪服のときは、きものと帯に「じのぶ」と書いて一味違うオリジナルデザインを創っているんです。

喪服のきもの姿やドレスは、黒で女性が美しく見えるときですか。喪服のおしゃれというのは女にとってとても大切なことです。

「書」は活気がでるし、人気が出るし、運が開けるし、お店が繁盛するんですね（笑）。

それで、店名のロゴを使って下

さつたり、今は俳優や歌手の方々の樂屋のれんの依頼が多いんです。山田五十鈴さん、美空ひばりさん、玉三郎さんとか五〇人ぐらい書いて、ひばりさんなんか三枚目で、色々デザインを変えないといけませんから手帳につけて（笑）。

大谷先生の書に対する「気力」が活気や人気につ

全国葬祭事業協同組合
神戸葬祭事業協同組合理事
本社/神戸市長田区松野通1-11-12
☎ 078-621-0089

葬祭専門士資格取得者
大谷徳風社

ながるんでしようね。私もぜひやりたい（笑）。

ながるんでしようね。私もぜひやりたい（笑）。

望月 私も十七歳で敗戦になつて韓国から引き揚げて来ましたから

「無」からのスタートでした。

今日の私があるのは、人とのいい出会い「だけなんです。いい人の一つ一つの出会いで今があるわけで、自分自身が好きで無心に書いている「書」を通しての出会いですから、人との出会いを大切にして行きたいですね。お金もうけな

んでものは紙切れですから、もう

けてどうのこうのという気はまつたくありませんね。もちろん生活

できるぐらいの事は必要ですが：

大谷 そうですね。私の仕事にしましても、いい人との出会いしか

ないと思っています。

望月 お金は自分の身体にかける

ことが大切で、書のお稽古でもそ

うですが、幼児の頃からお稽古ご

とにお金をかけて、自分自身を鍛

錬し磨いていけば、またそれが自

分にもどつてくると思いますよ。

三平の
やぶにらみ見聞録

△その7△

小関 三平

(神戸女学院大学教授)

カメラ／池田年男



海と山に抱かれたミュージアム 県立近代美術館を訪ねて

一見したところ、神戸は、ゲイジユツ・ガクモンの影が薄い街にみえる。つい、京都とくらべるからかもしれない。

が、ガクモンはともかく、「近代美術」にかんするかぎり、いさかの根がある。日本では、重要なセンターの一つだ。風景も、なれば「洋風」である。

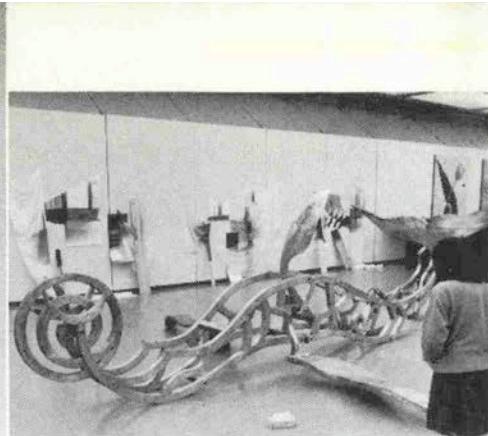
有名美術史家たちは、どの文献でもはとんど触れてないが、小磯良平より先輩の故・金山平三にしても、神戸が生んだ、色彩・風景画の大先達だった。(私がことに親しみを感じるのは、名前「平」と「三」のせいだけでなく、代表作「大石田の最上川」で、わが祖先代々墳墓の地を描いてくれた(?)からである)『兵庫県立近



なかなかモダンな建物です

代美術館」の誇りの一つは、「金山平三記念室」だが、わざわざ遠くから、訪ねてくる人もいる。だが、「近・美」は、今や、「国際化」に向かって一步を踏み出した。それも、日本の「現代美術」を海外に知らしめようとの意気込みである。今年一月、七年来姉妹提携してきた「スペイン国立美術館」での、「具体展」を皮切りに、ユーロスラヴィアその他の諸外国に、日本近・現代美術を紹介はじめ、ガゼン注目を浴びつある。パリに居る私の甥(内藤昌平・日本広報文化センター館長)にも知らしてやりたい。とくに、近代以降日本にあつてはもっとも前衛的な運動だったと言える。「具体」グループを、全国から集められた作品と記録フィルムで回顧し紹介する——というあたりがニクい。

「近・美」は、「鎌倉美術館」に次いで生れた二番目の「県立」美術館だが、関西の新進にとつての登龍門——毎春の『アート・ナウ』でも、知られている。たとえば、近頃はスイスその他でも知られだした、青年草司クン(夙川短大)にても、ペニスが林立してゐみたい、だんだら模様のファイバー・アート作品を、何年か前に出品してた。(彼は、京芸大で私の単位を奪い取った、現在の球友である……あ、脱落。薩摩焼酎チ



アート・ナウの会場は巨大な個性的実験ボックス

ユー・チューし
すぎて、酔っぱ
らったみたい、
ボクちゃん。ひ
とたび、左手に
酒・右手に筆を
取れば、「アル
チューで・ラン
ボー」になるの
でアール！」
今春の「アー

ト・ナウ」も、なかなか楽しかった。まるで遊園地であ
る。階段をあがると、日本が誇る新宮晋の、いかにも彼
らしい涼やかな小品が、軽やかに、風に舞っている。
(私は、この幼馴染み・後輩を仰ぎ見ているのである。
左を向けば、石原友明の、バカでかい愉快なコマが、鎮
座してゐる。

ホールに入ると、これまたバカでかい磁石状・逆U字
形の樹幹が、斜めに揺んでいる。作者・ふじい忠一は、
「木つ端の中で」育ち、奈良県工芸伝習所で学んだ本格
派とみえる。木の強さ・素朴さにハッとする、しかも
滋味に富んだ作だ。樹皮がほつれてゐるのも、E。

かと思えば、黒い巨大な方形の怪人が二体、木の枝を
たずさえて突っ立てるみたいな、金属立体もある——福
田新之助作・「深海の帝王」!(ジャーン)。

右奥には、赤・白んだらの「ステン棒にしがみつい
た」ひび割れ陶器の、大砲が、こっちを向いている。糸
を土に、タテをヨコに——というちがいがあるが、一瞬
かつての青野クンの「アイバー・ペニス(?)」を連想し
た。色彩とサイズでいちばん目立つのは、床を高く上げ
た東南アジア風家屋とも山車ともつかぬ作品(中西學)
だろう。屋根には怪鳥が寝そべって下をのぞき、床下の
土ではヘビがカマクビをもたげる——という感じで、子
どもたちをよろこばせそうだ。

今年は、壁面を飾る絵が少なかつたが、ただ一人のチ
ヤキチャキ神戸つ子・三村逸子嬢が外国海図のプリント
を地に、インク・水性絵具と墨汁を使った、ユニークな
「架空の遊戯」を、出展している。

技法もおもしろいが、原始・渾沌未分のモチーフとみ
え、無数の生き物が、大きな三枚セットの作品に、ウヨ
ウヨうごめいでいる。女性の手になるせいか、線は柔か
く細やかで、海と魚、そして「神に近い生命」の「素直」
さが好き、と言う。

近づくと細部はフクザツすぎるが、白とグレイのブレ



文人知事・坂本勝がつくらせた「近・美」

は、開館十五周年を迎えた。彫刻・版画にとくに力を入れているがジャンルの別を超えたフュージョン風のイベント（「美術劇場」シリーズ）でも、ギャラリイで古澤佑介が日舞を踊つて以来、先端を切つてきた。抽象画家・クレーの珍らしい楽譜を発掘して、ヴィオラ奏者・前川澄夫（大ファイル・篠山町在住）を柱に、絃のアンサンブルが、演奏したこともある。今年の「アート・ナウ」のフィナーレは、藤島啓子（ピアニスト）が、世界に名だたる前衛作曲家・ケイジによる「ヴァリエイションズ・3」の、6時間演奏で締めくくつた。

ンドがベースの、それぞれの画面中央をタテ・ヨコに走る、太くあざやかな曲線が、アクセントになつてゐる。すべての作者名を挙げられないのは、申し訳ないし、こんな風に書いてくると、単なる遊園地みたいに誤解する人もあるかもしれないが、当然のことながら、苦楽半ばしたにちがいない、若さあふれる力作ぞろいである。

ハイテク・エイジは、その対極に、有機的なイメージを増殖させる。百年前のヨーロッパ世紀末もそうだった。ゲイジュツは、アイディアとテクニックによる一種のウソが勝負だが、もともと、自然の一部にすぎぬホモ・サピエンスの戯れであり、救いでもある。幼な児の新鮮な感受性を持ちつづけなければ、表わし手・味わい手のどちらも、楽しめはしない。

それでも、ヘリクツでナリワイを立てる、ヤボな落ちこぼれガクシャたるわが眼に、ゲイジュツは、とりわけまぶしく映る、いわゆる現代美術なんか、十九世紀末から二十世紀二十年にかけての大膽な破壊と創造であらかた試みつくされた、と見る向きもあるが、人間の創造力は無限なんだなア……と、感じずにはおれない。骨だけみたいなシャカイガクなんか講じてる者がゲイジユツを語るなんて、テレくさくて、シラフではムリ。

ケイジ、ほよ？と、アラレちゃんみたいにつぶやいて、企画者の名を訊ねたら、若き才媛学芸員・山脇佐江子女士だった。彼女は、日本美術史出身だが、ダンナかつ同僚の山脇一夫氏は、フランス・南欧美術に通じた、三つ揃えをビシツときたダンディ（かつカラオケ・ファン）である。スペインとの交渉には彼があたつたらしい。

ドイツ・北欧担当は、アンソールその他の版画に詳しい、いかにも篠美な学究タイプの中島徳博氏である。（なんでボクちゃんが、いま、薩摩焼酎でベロンベロンかとヒト、彼が薩摩隼人であり、彼とのナレソメは、三宮ガード下の「金盃・森井商店」で、梅酎を酌み交して以来なのだが、四十に近いくせに、優雅な毒身生活をつづけてる。ケシカララン！）

だが、まだお会いしてないほかのスタッフも、新次長にして、さつそうたる夜の紳士・増田洋さんはじめ、多士済々である。前次長・小山泰三さんによると、八名の学芸員たちは、学閥・師弟関をいっさい排した構成になつてゐる。そうだが、異化のエネルギーを産むには、それがいい。これは、まだまだ「島国的」な裏面を捨て切れない日本美術界にあつては、意外に大切なことなのだ。



神戸出身の注目のアーティスト三村逸子さんと作品『葉空の遊戯』(左)と宝塚市出身の郡山広明さんの『へそ』(右上)美術劇場のユニークな企画者山脇佐江子さん

(ダイガクは、さらにオクレてる。)

「近・美」のスケジュールは、来年の分もきまつ正在が、この4月12日からは「兵庫の美術家」(5月25日まで)を皮切りに、「ホツフニーのカメラ・ワーク展」(6月)、「ドリードで大喝采を博した「具体」回顧展」(8月)、「セザンヌ展」(10月11月)その他とづき、そして来春は、いよいよ、日本では珍らしい現代スペイン美術展・「バルセローナ贊歌—二〇世紀カタロニア美術」、それに、阪神間ゆかりの「小出猪重生誕百年記念展」その他も、催される。(異人館とポートピアしか関心がないみたいな、アンノン族多数派もこういうものを観て帰るべきなのである。)

ただし、永年にわたってこのユニークな美術館の発展に、陰ながら尽くしてこられた、小山さんが、三月一杯で定年退職されたのを、惜しむ人は多い。小山さんは、今回初めてお話をうかがったが、長身・銀髪の上品な「実年」ダンディである。県の文化行政を支えてきた一人だけあって、お話は見識と含蓄に富み、切れ味も鋭い。この人には、ドリードのパーティでスペイン語原稿を読みあげて拍手を浴びた逸話もある。(スペイン語への関心が、日本では少なすぎるこことを、私は嘆く。)だが、小山さんは、来年開館の「横浜市立美術館」の設置準備というお仕事がある。二つの港町が、美術で結ばれる日も近い。

★兵庫県立近代美術館

神戸市灘区原田通三一八一三〇

電〇七八一八〇一一一五九一

阪急王子公園駅下車・国鉄灘駅下車

月曜日休館 午前十時~午後五時
(入館は午後四時半まで)